



日本医療マネジメント学会 News Letter

第78号 2020年3月1日発行
 発行 特定非営利活動法人
 日本医療マネジメント学会事務局
 〒860-0806 熊本市中央区花畑町1-1
 大樹生命熊本ビル3階
 TEL 096-359-9099 FAX 096-359-1606
 E-mail jhm@space.ocn.ne.jp
 URL <http://jhm.umin.jp/>

第22回日本医療マネジメント学会学術総会開催のお知らせ(第4報)

病院ビッグデータ革命～データ活用による「医療の質」「医療・介護連携」の飛躍(Leap)を求めて～



第22回日本医療マネジメント学会学術総会
 会長 三木恒治
 (社会福祉法人恩賜財団済生会
 滋賀県病院院長)

第22回日本医療マネジメント学会学術総会のお知らせも第4報となりました。本年6月26日(金)・27日(土)の2日間にわたり、“みやこめっせ(京都市勧業館)”および“ロームシアター京都”で本学術総会を開催させていただきます。

今、日本の医療は地域医療構想に基づき病床の機能分化・連携の実現と地域包括ケアシステムの構築に邁進しています。DPCの詳細なデータや病床機能報告制度により、2025年に向けてビッグデータに基づいた予測必要病床数が提示されています。その大再編時代のカギを握るのが、ビッグデータ活用による現状分析に基づいた具体的な方策の提示といえます。

一方、質の高い医療の提供は、我々医療者の使命です。超高齢社会の進展で、医療のみならず、質の高い医療・介護を実現するため、医療・介護連携も極めて重要な使命になってきました。こうした使命を果たすためには、今まで以上に健全経営の実践は欠かせません。そのためにはデータの分析が必要であり、今まさに大きな飛躍(Leap)をもたらす「病院ビッグデータ革命」の必要性に迫られているといえるのではないのでしょうか。そこで今回のメインテーマを「病院ビッグデータ革命～データ活用による「医療の質」「医療・介護連携」の飛躍(Leap)を求めて～」といたしました。

プログラムの概略は下記に示すとおりですが、今回の学術総会では、日本医学会会長 門田守人先生に「医学・医療の向う道」、厚生省迫井正深審議官による「2040年を見据えた日本の医療のこれから」などの特別講演、定番のクリティカルパス「医療の質向上を目指してークリティカルパスの基本を学ぼうー」、「(医療安全)組織としての分析の考え方」、「チーム医療を支える医師事務作業補助者の生涯教育について考える」、「クリティカルパスを活用するた

めに」、「働き方改革におけるタスク・シフティングの重要性」、「医療者のためのワークライフバランス～働き方改革を考える～」、「特定看護師の今後の展開」、「医療におけるリーダーシップのあり方」、「2020年診療報酬改定を振り返って～働き方改革・地域連携」などの講演、シンポジウムを企画しております。

一方今回のテーマに沿って、公益財団法人がん研究会がんプレジジョン医療研究センター 中村祐輔先生に「人工知能が変える日本の医療」、自治医科大学学長 永井良三先生には「医療に生かすビッグデータとAI」等の特別講演、滋賀大学データサイエンス学部長 竹村彰通先生には教育講演として「健康医療のためのデータサイエンスー滋賀県長寿の要因分析を例として」を、恵寿総合病院の神野正博理事長にはメインシンポジウム、「ビッグデータとICTが変える病院医療」を、更に「医療と介護のビッグデータ戦略」、「AIで医療・介護革命、豊富なデータで最適な医療・介護を導き出す試み」、「慢性疾患重症化予防・地域包括ケアにおけるICTの利活用」、「ビッグデータの利活用と課題」等の盛りだくさんのシンポジウムを企画しております。

また招待講演「いのちの看取りの物語」を宇治平等院 神居文彰住職に、日本対がん協会会長の垣添忠生先生に「人はがんどう向き合うか?」というテーマで市民公開講座をお願いしております。さらに書家の川尾朋子様に「現代の書に挑むーHITOMOJI PROJECT womanを通じてー」というテーマでパフォーマンスを交えたご講演をお願いしております。

祇園祭間近の6月末はかなり暑さが気がかりですが、学術総会の合間には、京都観光も楽しんでいただいで、京都の“おもてなし”と共に味わう京料理に舌鼓をうちながら、日ごろのお疲れを癒していただければと思います。また26日の懇親会では本物の舞妓さんも参加します。“おこしやす”、学術総会へ。

会 期：2020年6月26日(金)・27日(土)
 会 場：みやこめっせ(京都市勧業館)・ロームシアター京都
 事前参加登録受付期間：2019年11月19日(火)～2020年4月30日(木)